

終 章

今回の自己点検・評価にあたっては、認証評価の受審を予定している大学基準協会の大学評価に関する諸規定に沿い、本学の理念・目的、各学部、研究科、専攻科毎に定めた教育目標の達成に向けて、実際に実践した内容とその効果、またこれからの課題は何かということについて検証を行った。

出来るだけ広い視点、視野による報告書となるよう、学内ホームページに認証評価に係る専用のコーナーを設け、認証評価制度に関する資料、過去の本学の認証評価に関する資料、参考となる他大学の資料などを情報として掲載するとともに、この報告書の執筆担当者素案等を掲載して学内で広く意見を求めた。さらに、それぞれの分野で慎重に検証を行い、執筆担当者意見交換会や学内評価委員会等での議論を経てこの報告書を取りまとめた。

その結果、一部についてやや不十分である部分もあるが、概ねすべての評価基準について、大学全体としては方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されていることが確認できた。

また、今回の認証評価から新たに加えられた「内部質保証」に関する基準については、地方独立行政法人法に基づく評価制度の枠組みの中で、教育・研究・医療・経営等について、社会から求められる一定の水準を確保するために、毎年度自己点検・評価を実施し、その結果を学内にフィードバックして次年度（次期）の計画に反映させるというPDCAサイクルを確立していることを確認した。しかし、個別の質保証の手法については調整が必要な部分もあるため、今後対応策を検討する。他の基準に関しても、効果が上がっている取り組みについては、それを継続発展させ、改善すべき事項については、今後速やかに対応策を検討し改善を行っていくこととする。

近年、社会の多様な場面でグローバル化が進む中、本学としてもその流れに取り残されることのないよう、積極的に教育内容や教育環境について見直しを行い、教育目標に掲げている国際社会で活躍できる人材や国際的視野を持った人材を育てていかなければならない。医学部では、今後、医学教育分野別評価基準に対応し、診療参加型臨床実習の充実を行うなど、国際基準を満たす医学教育の実施を目指すとともに、本学の独自性をだせるようカリキュラムの編成及び授業評価方法等についての総合的な改善を行ない、グローバルな視点を持った人材の育成に注力していく。

また、県内唯一の公立医科大学として、「地域医療への貢献」が重要な使命であることを忘れてはならない。このことについては、地域医療に従事する医師・医療従事者に対する生涯教育や地域住民に対する健康・保健知識の啓発を担当する生涯研修センターと、キャリア形成支援により地域医療に従事する医師等の育成及び確保を担当する地域医療支援センターが中心となって取り組んでいくこととする。

また看護の分野では、看護キャリア開発センターと臨床技能研修センターが共同して教育プログラムの開発を行うなど、保健看護学部と附属病院が連携した形で教育の充実を図っていく。

本学としては、今後とも医聖華岡青洲をルーツとする「医の心」を忘れることなく、これからの社会環境の変遷に的確に対応し、和歌山県内唯一の医療系大学として、与え

られた使命を果たせるよう教育、研究、医療、看護のそれぞれの分野において、常に検証を怠らずに取り組んでまいりたい。